

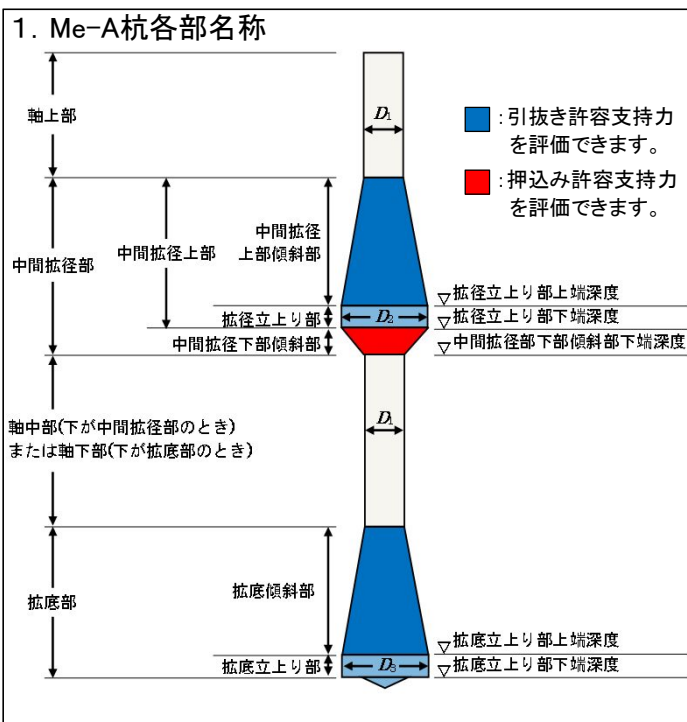


《 中間および先端に拡径部を有する場所打ちコンクリート杭工法 Me-A工法 》

～施工概要～

要 旨

平成26年3月、弊社は中間および先端に拡径部を有する場所打ちコンクリート杭工法『Me-A工法 (Multi Enlarged-nodes Ace Pile)』を共同開発し、(一財)ベターリビングから技術評定を取得いたしました。トピックスVol.27の「Me-A工法評定取得報告」に続き、本号ではMe-A工法の施工概要をご紹介します。



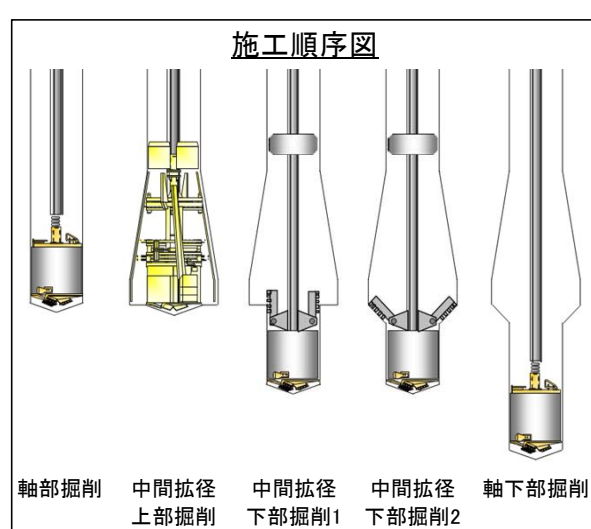
2. 杭の寸法・形状

杭軸部径	1.0m～4.0m (通常は3.0mまでとする)
中間拡径部の施工径	1.4m～4.8m
拡底部の施工径	1.2m～4.8m
拡径率の最大値	4.62
拡径部上部傾斜角度	12°
拡径部下部傾斜角度	45°
中間拡径部最大施工深さ	56m (施工地盤から中間拡径部下部傾斜部下端深度)
中間拡径部最小施工深さ	10m (地盤の引抜き方向の許容支持力を期待する場合)

3. 施工方法

Me-A工法は、杭の軸部を一般の場所打ちコンクリート杭で使用される掘削機により所要の深度まで掘削し、中間拡径部(杭中間部)および拡底部(杭先端部)またはいずれかを専用の掘削バケットにより拡大掘削した後、鉄筋かご建込み、コンクリート打込みを行います。

中間拡径部の掘削は、中間拡径上部掘削をnew ACEバケットで、中間拡径下部掘削はMe ACEバケットで行います。また、拡底部掘削は中間拡径上部掘削と同様とし、new ACEバケットで掘削を行います。new ACEバケットにより掘削を行う際は、ポテンションメータまたは流量計により拡大量を確認しながら所定の径まで拡大されたことの確認を行います。また、Me ACEバケットにより掘削を行う際は、流量計により拡大量を確認しながら所定の径まで拡大されたことの確認を行います。



本工法は中間拡径部を有する杭をMe-A(1)杭、中間拡径部を有しない杭をMe-A(2)杭と称します。特にMe-A(1)杭は中間拡径部を施工する地盤の検討が非常に重要なため、Me-A(1)杭を検討される際は弊社へご相談下さい。